

新しい機能性酸化物強誘電体の探索

谷口博基 准教授

(名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻)

2015年9月3日(木) 15:00—16:00

創成科学研究棟4階セミナー室B

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>



強誘電体は、半導体と並び現代の先端技術を支える重要な物質系である。従来の強誘電体は、主に酸素八面体を基本構成要素とした化合物において開発されてきた。それに対して最近我々のグループでは、酸素四面体を基本構成要素とする新しい強誘電体の開発に取り組んでいる。酸素四面体は地殻にもっとも豊富に含まれる酸化物形態の主な構成要素であり、酸素四面体系強誘電体の開発は、豊富な資源を用いた環境に優しい科学技術の発展に貢献すると期待される。講演では、最近我々のグループで見出した強誘電性シリケートにおける強誘電性のメカニズムを解説する。また、現在取り組んでいる強誘電性アルミニートゼオライトの開発について紹介する。

問合せ先： 触媒化学研究センター・中島清隆(nakajima@cat.hokudai.ac.jp・011-706-9136)

2003年3月 九州大学理学府(修士課程)凝縮系科学専攻修了, 2004年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2), 2004年4月~2005年9月 北海道大学大学院理学研究科(博士後期課程)物理学専攻中退, 2006年9月博士(理学)取得[北海道大学] 2005年10月~2013年3月 東京工業大学応用セラミクス研究所(助教), 2013年4月~現在 名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻(准教授), 2014年8月~現在 東京工業大学客員准教授(兼任)